



No.51

長野県看護大学学報



新生児の蘇生を試みています

特集：「コロナ禍における本学の実習」

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度までと同じような実習を行うことはできなくなりました。そのような状況の中、本学では各分野が工夫を凝らして実習を行い、大きな成果を上げることができました。今号ではその様子を写真とともにお伝えします。



助産実習

今回は、一部の期間において行った学内実習についてご紹介します。学内実習では、事例に基づき妊娠期や産後の時期にあるご夫婦に向けた保健指導をロールプレイで行いました。ロールプレイでは男性教員からもご協力いただき、実際の保健指導を受けた感想などフィードバックもいただきながら、自己の評価を踏まえ学びを深めました。

また、インストラクター資格を有する教員が主体となり、初の試みとして臨床では必須とされる新生児蘇生法（NCPR）の公認講習会Aコースを実施しました。1日がかりの講義と実践さながらの演習を経て、助産師コース履修生8名全員が修了認定を受ける資格を得ることができました。主体的に機敏に動き、的確なケアを実践する学生たちの姿に、教員らは例年はないこの厳しい状況下で臨地実習をやり遂げた履修生らの成長に感動いたしました。

母性・助産看護学分野 准教授 河内 浩美



教員扮するお父さんへの
沐浴指導

基礎看護実習Ⅰ・基礎看護実習Ⅱ

基礎看護実習Ⅰ（1年生前学期科目 期間6月15日～19日）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインと一部学内演習での実施となりました。実習病院の看護部はじめ多職種の皆様には、オンラインやVTRでご協力頂きました。学内演習として実施した「療養環境を知る」ための環境測定が、唯一グループメンバーと直接関わる機会となりました。ごちなく緊張しながらもお互い対面してやり取りすることに嬉しさが滲み出ていました。基礎看護実習Ⅱ（2年生後学期科目 期間9月24日～10月16日）は、2クール4分割編成でスケジュールを組み直し、病院実習2日間、学内演習7日間の計9日間で実施しました。病院実習で得た患者情報をもとに、日常生活援助を中心に看護過程を展開し、学生同士が患者役を演じて援助を実施しました。実際の患者ではできない「試みる」「やり直す」「失敗を振り返る」経験ができ、例年にはない学びを得ることができました。

基礎看護学分野 教授 伊藤 祐紀子

成人看護実習

今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため臨地実習を行えなかったり、途中で中止になったりしたこともありましたが、その場合は学内やオンラインで教員が作成した患者さんの事例について看護を検討しました。実際に患者さんの状態を観察して情報を得る代わりに、DVDや写真を見て患者さんの様子を理解したり、手術後患者のモデル人形で患者さんの様子を理解できるようにしたりしています。また、病棟実習で毎日患者さんの状態を把握してケアを考えるのと同じ様に、毎日患者さんの追加情報を得て考えています。そのほか、患者さんの状態に合わせた清拭の手順や方法をグループで検討しています。学生からは臨地での経験ができないことに対する不安も聞かれますが、その分学びを深めようと努力し多くのことを学んでいます。

成人看護学分野 講師 浦野 理香



学内での実習の様子（手術後の患者の看護）

老年看護実習

今年度の老年看護実習は、感染状況を鑑みすべて学内実習に切り替えました。前期は個別指導も含めすべてオンラインで実施しましたが、後期は感染防止に配慮しながら対面を交えた実習を行っています。学習目標を達成するために、複数の事例を用いてアセスメントと看護計画の立案を行い、個別学習とグループ討議を重ねながら高齢者のQOLをふまえた看護過程の理解を深めています。立案した看護計画の評価視点を明確にすることで、学生が看護計画の目的や根拠を意識できるよう工夫しました。高齢者とのコミュニケーション方法、個々のニーズを捉えた看護の理解を深めるためにDVDを視聴しながらグループ討議を行い学習の充実を図っています。また様々な文献やメディアの探索を通して、地域で暮らす高齢者やリハビリテーションを受け在宅生活を送る高齢者の理解を深め、多様な場で生活する高齢者への看護について視野を広げています。

老年看護学分野 准教授 千葉 真弓



学内カンファレンス（受け持ち利用者様の看護計画の立案）

精神看護実習

「実習ができないなんてことある？」教員間でこんな会話を交わし、5月から学内演習が開始となりました。精神看護実習は、直接患者と関わることで問題解決看護過程、対人関係技術過程、精神保健福祉法に基づく基礎知識を学びます。ほとんどの学生が、精神障害者と関わった経験がなく精神科病棟のイメージがつかないことが予想されました。動画による視覚教材、リモートで当事者からの体験談を聞き質問ができました。事例展開やプロセスレコードの振り返りでは個人ワーク、グループワークで学びを深めることができました。後期実習では、臨地の滞在日数時間短縮に伴い、臨床指導者や多職種スタッフも快く協力して下さり、カンファレンスや講義をリモートで行っています。教育効果を見据え試行錯誤で実習をしています。



病棟オリエンテーションの様子

精神看護学分野 助手 福嶋 洋子

母性看護実習



受持ち事例のお母さんへの授乳指導

本年度は全て学内実習となりました。臨場感を感じながら臨地での実習に即した展開となるよう「事例による受持ち」を行い周産期における看護を実践するための知識、技術、態度の習得を目指しました。実際に母子の受持ちはできませんが、産後1日目から退院するまでの経過を一日ずつ与えられた情報から、立案した看護ケアを学内演習で実践したり、オンラインを介して保健指導を行ったりし、その結果を評価しながら看護過程を展開していきました。



赤ちゃんの沐浴

履修された学生の皆さんは、教員が演じるお母さんからの予期しない質問や返答に、臨床で出会うお母さんとのやり取りさながらの緊張感を時に感じながら取り組んでいました。また、実習終了後にいただくご意見からオンラインや学内実習の課題や利点を知ること新たな教授方法を見出す機会ともなりました。

母性・助産看護学分野 准教授 河内 浩美

小児看護実習



安全演習の様子

小児看護実習では、易感染状態にあるお子さん、自分で感染予防行動を取れないお子さんを受け持つことが多く、普段から感染予防のため手指の衛生を徹底しています。実習前に適切なタイミングで手指の衛生を行えるよう学内実習で再確認しています。今年度は保育園での実習ができなかったこともあり、子どもの特徴や関わり方をイメージしにくい状況になっています。そのため、新生児や乳児の人形を使って抱っこ練習や、小児の療養環境を実習室に再現し、危険な箇所を考える安全演習を行うことで、小児をイメージできるようにしています。病院で実習できる日数は限られていますが、患者さん・ご家族との関わりの中で得られる学びは大きいと学生も実感し、お互いに学びを共有しつつ頑張っています。

小児看護学分野 助手 小原 綾香

地域看護実習



健康教育の演習風景

地域看護実習では、個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護活動の方法とその展開に必要な技術を学ぶと共に、理論と技術の基本的な理解を深め、公衆衛生看護の特質を学ぶことを目的としています。臨地での学習が困難な今年度は、学生がこれらの目的に到達できるための新たな方策を模索し、試みてきました。例えば、保健所の業務説明や市町村の乳幼児健康診査の場面を動画撮影して学生に視聴させ、公衆衛生看護活動の具体的な思い描きを図るようにしました。また、市町村の保健師や小・中学校の養護教諭にご来学いただき、日頃の業務内容や新型コロナウイルス感染症対策の現状等についてのご講話をいただきました。学生も積極的に学びを積み重ねており、実習施設のご理解とご協力のもと、このような形で実習が継続できることに深く感謝しています。

地域・在宅看護学分野 講師 御子柴 裕子

在宅看護実習

在宅看護の特徴と看護職の役割を理解するために、実習目標に照らし合わせて8つの演習項目を設け、リモート実習および福祉用具専門店の見学・体験を行っています。リモート実習では訪問看護の事例演習や支援会議、地域医療機関に関する演習を通して療養者と家族が安心して在宅での療養生活を送るための多職種連携による支援について考えます。さらに、訪問看護認定看護師さんからも指導を頂く機会を設けています。また、病院看護職が行う地域住民への介護予防活動や退院支援、地域の社会福祉士さんと看護職との連携の実際を学ぶ内容もあります。実習を終えた学生は、「在宅看護においては療養者と家族の思いや価値観、人生を大切にして看護を行うこと、病院からの移行時やサービスが入らない時間も困らないように支援することが大事」など、多くのことを学んでいます。



福祉用具専門店での体験風景

地域・在宅看護学分野 講師 柄澤 邦江

看護統合実習

看護統合実習は、病院組織での看護管理、多職種連携、リーダーシップ、メンバーシップのあり方など看護チームの一員としての看護ケアマネジメントについて学びます。今年度は、オンラインでの実習になりましたが、病院での看護管理の実際について看護部長・看護師長より、多職種連携については認定看護師に臨床講義をしていただきました。加えて患者の安全を高めるためにチームで取り組む方法を学ぶ医療安全課題演習、多重課題に直面した際の優先順位の決定など実践的判断を学ぶ多重課題演習を実施しました。臨床講義を受講した学生からは「看護部レベルの目標に基づき病棟レベルの目標を設定することで、職員全体が同じ方向を向き自分の役割を自覚することに繋がると学んだ」「認定看護師として、専門的知識を発揮しながら、患者さんに良いケアを提供できるよう病院だけでなく地域とも連携していることを学んだ」などの感想がありました。

看護管理学・看護教育学分野 講師 井本 英津子

「精神」「小児」の 実習を終えて…

細田 智香さん
学部3年

患者さんの訴え、症状、人生背景や、性格を分析し、自分が何をすべきかを考えることは難しく、うまくいかなかったり、期待していた反応が得られなかったりして自信をなくすこともありました。講義や、教科書で学んだことの理解を深めながら、目の前にいる患者さんと向き合い、実践をしていき多くの学びを得ました。そして、患者さんの笑顔を見ると、やりがいを強く感じました。あと5つの領域が残っています。新型コロナウイルスの影響で、思うように実習ができないかもしれません。その中でも「患者さんと共に」看護を考える姿勢を大切にしていきたいです。

「母性」「地域」「在宅」 の実習を終えて…

磯谷 奈未乃さん
学部3年

実習では、それぞれ1日だけ臨地実習に行きました。例年のように臨地に出向いて対象者の方達と深く関わることができないことに対する不安はありました。しかし、その分、学内では事例演習や学びの共有の時間が増え、グループ内でさらに深め合い多くの学びができていていると思います。残りの領域実習もメンバーの仲間とともに乗り越えていきたいです。

学長コーナー

皆さま、ご存知ですか。本学の正面玄関前には樹齢40年程の^{けやき}欅が、あたかも千手観音菩薩のように天空に枝葉を広げて鎮座しています。この樹は1995年本学の開学時に長野県看護協会から寄贈されました。今年で植樹後早26年目を迎えますが、静かに気高く力強くスクスクと育っています。私は幼少期を石川県の奥能登の里山で樹々や草花、小川や山々が織りなす風景に囲まれて育ったことから、癒しを求めて時々学長室2階の窓からこの樹を眺めています。そんな時、ふと幼少期の故郷の原風景がいきいきと思い出され、コロナ禍のストイックな喧騒から離れた^{ひととき}瞬間を手繰り寄せています。この欅の樹はこれから何十年何百年の時を超えて幾星霜、本学と地域に寄り添い見守り続けることでしょう。そして、いつの日かこの欅の樹の下で卒業生やその子どもたち、教職員や地域の皆さまが集い佳き日の思い出を語らうことを祈念しています。

これからも「地域に学び、未来を拓く」行動理念のもと、「グローバル(Global)」と「チャレンジ(Challenge)」と「ケア力(Caring)」と「叡智(Wisdom)」の4つを行動目標として、本学の教育理念である「学生個々人のもつ可能性が最大限に開花すること」を目指して、個性豊かで魅力溢れる大学(Hub/Magnet College)づくりに取り組みたいと存じます。

学 長 北山 秋雄



ともに歩むということ

生まれや育ちは人それぞれです。当然ながら、ものの見方や考え方、そしておそらくは経験から得たことも様々なはずです。私にないものを皆さんは持っていますし、またその逆も然りでしょう。これからを務めるにあたり、そうしたものを皆さんから是非ともいただきたいと思います。恩師からよく聞かされました。いろんな血が混じり合うことで、大学という組織は強くなると。それは異なる考えで互いを補い合い、いろんな見方で問題に対処し、さらには新しいものを生み出すために必要なことです。異種なものを許容する。そうしたことも時として大切になります。私にはない皆さんの力を、どうぞお貸し下さい。そのうえで、この2年間で共に歩みたいと思います。



新学部長 坂田 憲昭

フォト かんごだい

西垣内磨留美先生名誉教授授与式



令和2年10月20日、本学大会議室において、長年本学の教育にご尽力いただいた西垣内磨留美先生に対して、名誉教授の称号が与えられました。

オンライン研修会

今年度の教職員FD・SD研修会は、9月2日（水）に海外文献データベースEBSCOhostのサービス提供会社より講師を招いてオンライン(ライブ)で実施しました。「EBSCOhostを使いこなす」というテーマで、効率の良い文献検索方法や文献検索において活用すると便利なツールなどを紹介していただき、充実した1時間となりました。初めてのオンライン研修会でしたが事前の接続サポートもあり、教職員24名、大学院生5名が受講しました。また研修会のライブ録画を一定期間（2021年2月まで）、視聴できるようにしていただき、当日参加の出来なかった方々へも対応することができました。オンラインでの研修会は移動の制約が無いため参加しやすいことが利点です。今後もより多くの方に参加していただけるような研修会を企画したいと思います。

老年看護学分野 准教授 千葉 真弓



10月27日
動物慰霊祭



11月3日
第6回こまがね まちなか応援
歴史フットパス・ジャンボリー



11月13日
消防避難訓練研修会



11月20日
精神看護学卒業研究発表会



後援会の援助により食堂に
アクリル板が設置されました

新任教職員紹介



母性・助産看護学分野 助手
藤澤 紀子

こんにちは。7月より母性・助産看護学分野に着任しました藤澤紀子と申します。これまで総合病院で臨床助産師として勤務してきました。今後、皆さんと一緒に母性や助産の素晴らしさを楽しみながら学び、より深めていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。



基礎医学・疾病学分野 助教
上條 明生

これまで様々な病院で理学療法士として働いていました。現在は基礎医学・疾病学分野でお世話になっております。看護教育でお役に立てるよう先生方から学んでいくと共に、看護師ではない視点からの協力もできればと考えています。よろしくお願いいたします。



図書館職員
栗原 美乃

初めまして。昨年10月から図書館補助員に着任しました栗原美乃と申します。日々、皆さんの調査研究のお手伝い出来ることに喜びを感じています。微力ではございますが、お役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。いつでも気軽に声がけください。

サークル活動の紹介

ビブリオサークル

学部2年
松村 こころさん

ビブリオサークルは、本が好きな人と繋がりたい、多くの人に本や読書の魅力を伝えたいという想いから今年度新しく立ち上げたサークルです。本を介して人と繋がること、学びを深めることを目的に活動しています。定期会では毎月テーマを設定して、サークルメンバーが「おながさく本」「眠くなる本」などのテーマに沿っておすすめる本を用意して紹介しています。人によってテーマの捉え方の違いや、選ぶ本やそのジャンルが異なるため、毎回新しい発見や刺激があります。今後学内や地域に向けた発信も行い、多くの人に魅力を伝えていきたいと思っています。



フットサルサークル

学部2年
清野 遥菜さん

サークル長の清野です。サークル長になり頑張るぞ！と意気込んでいたのですが…新型コロナウイルスという厄介なウイルスが突如現れ、満足に活動できない日々が続きました。身体がうずいていました。早く身体を動かしたいと。そして6月にやっと1回目のサークルを行うことができました！それはもう嬉しくて走り回りました。次の日は見事筋肉痛になりました。参加者みんな「コロナなんか負けてたまるか」と元気にサークル活動を行っています。「早く平穏な日々が訪れますように」と願いながらサークル活動をしていきたいと思っています。



バドミントンサークル

学部2年 下田 愛海さん

こんにちは！バドミントンサークルは毎週水曜日に学校の体育館で活動をしています。バドミントンの経験者だけでなく未経験者も楽しく参加しています。サークル活動を通して先輩や後輩など学年を超えた交流をすることができます。今はこのようなコロナ渦ではありますが感染予防を行いながら元気に活動を行っています（現在は休止中）。サークルの時間は友達や先輩、後輩と会うことができたりとても楽しいリフレッシュの時間になるのでまた思いっきり活動できるようになるといいなと思っています。

社会人一年目 からの声

白鳥 魁人さん

信州大学医学部附属病院 看護師

就職してから半年以上経ち、少しずつではありますが日々の仕事にも慣れてきました。8月のラジオ出演にしましては、「信州で学ぼう」をテーマに、中高生を対象として、長野県看護大学で学ぶ魅力や信州の地で働くことの良さについてお伝えしました。これからも一社会人として、地域に貢献できるように働きができればなと思っています。



甲斐 千尋さん

山梨県立中央病院 看護師

私は消化器内科、外科の混合病棟で働いています。私の所属する病棟には急性期から慢性期、終末期と幅広い患者さんが入院しており、学ぶことが多く刺激のある毎日を送ることができています。患者さんに関わる中で、安心して療養生活を送るためにはどう関わるべきか模索する日々です。「この看護師なら任せられる」と思ってもらえるよう、今後も学びを深めていきたいです。



古田 祐子さん

長野市保健所 保健師

保健センターで乳幼児健診や生活習慣病予防事業、地域で生活する上で課題を抱えている方への支援等を行っています。コロナ禍において、例年とは異なる形での事業実施も多いですが、幅広い年代の方に関われることに保健師の魅力を感じています。また、子育ての知識や疾患について勉強の毎日ですが、市民の方の笑顔や「話を聞いてもらえて助かった」という言葉がやりがいに繋がっています。これからも市民一人ひとりに寄り添った支援ができる保健師になれるよう頑張っていきたいと思います。



田村 萌恵奈さん

伊那中央病院 助産師

初めは右も左も分からない状態でしたが、妊娠期・産褥期のケアや指導、新生児の看護、沐浴、帝王切開のベビーキャッチ、婦人科疾患の患者さんの看護、夜勤など少しずつ自立して行える業務も増え、4月の自分と比べると成長のあった濃い半年に思います。分娩介助や小児科入院となった新生児の看護の自立を目標に、妊産婦さんや患者さんに頼りにしてもらえる助産師を目指してこれからも頑張りたいです。

